

箏曲（上演プログラムテキスト）

箏^{こと}は日本の国民的な楽器とみなされています。これは、13本の弦がある木製のツィターの一種で、右手に装着したフィンガーピックで弦を爪弾き、左手で弦を押さえて音程を変えます。最終的に現代の箏^{こと}へと発展した弦楽器は、1,300年以上前にアジア大陸から日本へもたらされました。何世紀にもわたって、箏^{こと}は宮廷での演奏の際に演奏され、そのロマンチックな響きは古典文学で賞賛されました。江戸時代（1603年～1867年）になると、箏^{こと}のレパートリーが大幅に拡大し、京都の生田^{いくた}流と東京の山田^{やまだ}流という2つの主要な流派が設立されました。そのどちらも、現在でも盛んです。

この公演では、生田^{いくた}流の箏^{こと}奏者が、3曲を披露します。みだれ、季節に応じて春^{はる}の曲または千鳥^{きよく}の曲、春の桜に関する民謡「さくらさくら」です。